

令和５年度 第２回 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村
地域公共交通活性化協議会 議事概要

日時：令和５年１０月１９日（木）午後２時～午後４時
会場：河南町保健福祉センター「かなんぴあ」２階 大会議室

●出席委員 ２７名

猪井委員、中村委員、内田委員、鬼追委員、伊東委員（安尾氏が代理出席）、高平委員（亀井氏が代理出席）、西田委員、湯口委員、金谷委員、岡崎委員、古川委員、伊藤委員、川邊委員、井関委員、池田委員、野谷委員、藤田委員、松崎委員、芝辻委員、市村委員（松本氏が代理出席）、田内委員、嶋田委員、才門委員、松田委員、齋藤委員、渡邊委員、稲山委員

●欠席委員 １名

白江委員

●公開・非公開の別 公開

●傍聴人数 ５７名

●会議次第及び議事要旨

案件

- （１）金剛自動車株式会社のバス事業の廃止に伴う新たな公共交通の素案とそれに必要な協議事項の検討について
事務局より資料２に基づき説明した。
質疑及び意見等は議事概要のとおり。
- （２）その他
事務局より会議の開催日時について説明した。
第３回 １０月２６日（木）１４時～を予定

●資料

資料１ 委員名簿

資料２ 金剛自動車株式会社のバス事業の廃止に伴う新たな公共交通の素案とそれに必要な協議事項の検討について

参考資料１ 令和４年度乗合系統別輸送人員実績表

●議事概要

案件

- （１）金剛自動車株式会社のバス事業の廃止に伴う新たな公共交通の素案とそれに必要な協議事項の検討について

金谷委員 現在の金剛バスは大型であるが、コミュニティバスも同じか。

また、金剛バスの運賃が非常に安い料金で運行されていたと聞いている。利用者としては嬉しい話であるが、地域全体で将来のことを考えると運賃改定が必要なのではないか。

事務局
(富田林市) 現在聞いている話では、金剛バスと同程度の大きさと聞いている。
また、運賃改定の話については、まずは12月20日以降の運行に向けて協議を進めているところであり、時間的な問題からしてもすぐに運賃改定をするのは難しい。このため、運賃については、当面の間、金剛バスの運賃を引き継ぐこととし、今後検討していく。

古川委員 通勤や通学、帰宅など乗降人数が多い時はどうするのか。

事務局
(河南町) 1時間に1便では難しいところもある。その場合は、カナちゃんバスなどの大型バス等を利用して、補完しながら維持していきたい。

渡邊委員 千早赤阪村エリアの千早線で、自家用有償旅客運送を検討するという話があり、その説明の中で村民を対象にするという話があったが、河南町民も利用できるのか。

事務局
(千早赤阪村) まずは村民の利用を考えているので、河南町と富田林市では停車せず通過する。村内のバス停から乗りさえすれば、河南町民の利用も可能である。

渡邊委員 これまで全市町村で地域の足を確保できるように協議してきたと思う。
千早赤阪村がそのような形で進めるというのであれば、河南町は河南町で独自に自家用有償旅客運送を運行させることも考えられるが、河南町はどうか。

事務局
(河南町) 河南町としてもその方が需要は高いと考えるため、その際は再度検討することになる。

高平委員
(代理亀井氏) 本南河内地域は、日本維新の会の浦野靖人衆議院議員の地元であり、また、本地域からは、2名の大阪府議会議員も選出されている。その中でも、大阪維新の会の鈴木憲議員は、大阪府議会9月定例会においても公共交通の確保について質問に立つなど、金剛バス廃止に伴う府民の皆さんの足となる公共交通の確保について府議会の先頭に立って取り組んでいる。また、富田林市、太子町、河南町、千早赤阪村の議会においても、様々な声が上がっていると聞いている。そこで、本検討にあたっては、地域の皆さんの声を代弁する議員の皆さんへの情報提供や意見聴取はどのような形で行っているのか。

松田会長
(議長) この協議会には、住民の生活に直結する大きな問題であり、多くの住民や議員などが傍聴に来ている。また、議事概要や会議資料をウェブサイトな

どで公開しており、各市町村議会でも適宜報告するものと考えている。

高平委員　地域の皆さんの声の代弁者である議員の皆さんにはしっかり相談、報告を（代理亀井氏）行って、今後も検討を進めていただきたい。

西田委員　政党名を言う必要はないと思う。委員がそれぞれを代表する立場として、協議会に出席しているのに、なぜこの場でそれを言わないといけないのか。

松田会長
（議長）　ご意見として承る。

古川委員　私は、地域で協力しながら農業をしてきた。南河内地域もそうすべき。今回このような大きな問題の解決に向けて、みんなで寄り添って話をする事でより強い絆が生まれるのではないか。このような趣旨をもって、私はこの協議会に出席している。個々の事情はあると考えるが、やはりここではわがままな発言をするべきではない。千早赤阪村の話では、自家用有償旅客運送は村民の利用を優先するようであるが、河南町内を通るからには乗せていただきたい。河南町も河南町で、できるだけ近辺と話し合い協力しながら、この協議会で出した答えが全ての人とは言わないまでも、大半の人にとって良かったと思えるようにしたい。

松田会長
（議長）　協議会の本質を捉えるような発言だったと思う。先ほどの千早赤阪村の話は、使用を考えている車両が小さいこともあって、現段階では村民に利用を優先する方法も検討しているとのことである。ただ、千早赤阪村においては、委員から先ほどの意見があったということも考慮した上で、検討をお願いします。

稲山委員　5路線の運行主体は自治体ということであったかと思うが、南海バスと近バスに運行協力の依頼をするのは自治体と協議会のどちらになるのか。

猪井委員　協議会であると認識している。

以上